

令和2年度水戸市下水道事業会計決算審査意見書

第1 審査の種類

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項に基づく決算審査

第2 審査の対象

1 決算書類

- (1) 令和2年度水戸市下水道事業決算報告書
- (2) 財務諸表
 - ア 令和2年度水戸市下水道事業損益計算書
 - イ 令和2年度水戸市下水道事業剰余金計算書
 - ウ 令和2年度水戸市下水道事業剰余金処分計算書
 - エ 令和2年度水戸市下水道事業貸借対照表

2 決算付属書類

- (1) 令和2年度水戸市下水道事業報告書
- (2) 令和2年度水戸市下水道事業キャッシュ・フロー計算書
- (3) 収益費用明細書
- (4) 固定資産明細書
- (5) 企業債明細書

3 証書類

第3 審査の期間

令和3年6月2日から同年8月6日まで

第4 審査の実施内容等

審査に当たっては、水戸市監査基準（令和2年水戸市監査委員告示第1号）にのっとり、決算書類及び決算付属書類は、法令に適合し、かつ正確であるかについて関係諸帳簿等と照合及び計数の確認を行うとともに、7月6日には、監査委員室において関係職員から説明を聴取し、定期監査及び例月出納検査の資料も活用して審査を実施した。

第5 審査の結果

決算書類及び決算付属書類は、法令に適合し、かつ正確であることを認めた。

第6 決算の概要

1 業務実績

当年度末の処理区域内人口は215,632人、水洗化人口は189,147人となり、前年度と比較して処理区域内人口は864人（0.4%）、水洗化人口は1,460人（0.8%）それぞれ増加している。処理区域内人口に対する水洗化率は87.7%となり、前年度と比較して0.3ポイント上昇している。また、一日平均処理水量は80,117m³、年間処理水量は29,242,599m³となり、前年度と比較して一日平均処理水量は969m³（1.2%）、年間処理水量は274,271m³（0.9%）それぞれ増加している。

2 経営成績

総収益は8,730,753,674円となり、前年度と比較して161,708,472円（1.8%）減少している。これは、一般会計からの負担金の減などにより営業収益が73,297,596円（1.8%）減少したことや、一般会計からの補助金の減により営業外収益が88,425,876円（1.8%）減少したことなどによるものである。

総費用は8,528,846,534円となり、前年度と比較して57,922,796円（0.7%）減少している。これは、処理場費の増などにより営業費用が68,804,527円（1.0%）増加したが、支払利息の減などにより営業外費用が126,017,268円（8.4%）減少したことなどによるものである。

この結果、当年度純利益は201,907,140円となり、前年度と比較して103,785,676円（34.0%）減少している。

3 財政状況

資産合計は157,807,935,070円となり、前年度と比較して2,251,441,297円（1.4%）減少している。これは、減価償却に伴う構築物の減などにより固定資産が1,814,593,036円（1.2%）減少したことや、現金預金の減などにより流動資産が381,250,544円（17.8%）減少したことによるものである。

負債合計は129,342,272,031円となり、前年度と比較して3,222,927,437円（2.4%）減少している。これは、企業債の減により固定負債が2,939,644,089円（4.1%）減少したことや、未払金の減により流動負債が243,563,392円（3.7%）減少したことなどによるものである。

また、固定負債及び流動負債に計上された企業債は、当年度の発行額が元金償還額を下回ったため、前年度と比較して2,872,985,637円（3.7%）減少し、73,968,644,520円となっている。

資本金と剰余金を合わせた資本合計は28,465,663,039円となり、前年度と比較して971,486,140円（3.5%）増加している。これは、繰入資本金の増などにより資本金が1,075,271,816円（4.1%）増加したことなどによるものである。

なお、短期的な支払い能力を示す流動比率は27.9%となり、前年度と比較して4.7ポイント低下している。これは、未払金の減により流動負債が243,563,392円（3.7%）減少したが、現金預金の減などにより流動資産も381,250,544円（17.8%）減少したことによるものである。

4 資金状況

業務活動によるキャッシュ・フローは3,499,542,328円のプラス、投資活動によるキャッシュ・フローは1,770,181,949円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは2,103,406,637円のマイナスとなっている。

この結果、資金減少額は374,046,258円となり、資金期末残高は1,305,496,927円となっている。

業務活動によるキャッシュ・フローはプラスであり、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスであることから、業務活動によって得た資金を活用して、投資活動や企業債の償還などの財務活動が行われていることがうかがえる。

第7 意見

下水道部では、当年度においても、企業債未償還残高及び一般会計からの繰入金の縮減を図りながら、計画的な施設の整備に加え、下水道への接続促進等に取り組んでいるところである。引き続き、「水戸市下水道事業経営戦略」に基づく取組を着実に推進するとともに、次の事項に留意しながら、下水道サービスの安定的な提供に努められたい。

1 水洗化率の向上について

下水道事業における水洗化率は、下水道が整備された区域内の人口のうち実際に下水道に接続している人口の割合を示すもので、前年度と比較して0.3ポイント上昇し、87.7%となった。下水道の未接続世帯に対しては、引き続き各世帯の実情に合わせた説明や相談を行うとともに、他市の効果的な取組を参考にしながら更なる接続促進を図り、水洗化率の向上に努められたい。

2 未収金の縮減について

下水道事業受益者負担金の未収金については、前年度と比較して約400万円減少し、約800万円となったが、下水道使用料の未収金については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた徴収猶予を実施したことなどにより、前年度と比較して約800万円増加し、約4億6,300万円となった。新型コロナウイルス感染症の影響等に配慮しながら、未収金が累積しないよう未納者の状況に応じた的確な収納対策に取り組まれたい。

今後も、受益者負担の公平・公正性確保の観点から、滞納者の実態に応じて積極的に滞納処分を実施し、未収金の縮減に努められたい。

3 下水道施設の適切な管理について

下水道部では、下水道施設全体の長期的な状態を予測しながら、計画的かつ効率的に施設を管理するため、令和元年度に長期的なストックマネジメント計画を策定し、当年度は、この計画を踏まえた令和3年度から令和7年度までの5年間の短期的な改築・修繕計画を策定したところである。

今後は、この改築・修繕計画に基づき、重要性や緊急性のある施設の点検・調査と改築・修繕を着実に実施し、老朽化に伴う故障等のリスクの低減と事業費の抑制を図りながら、下水道施設の機能が安定的に維持できるよう適切な管理に努められたい。

4 経営の健全化について

下水道事業を取り巻く経営環境は、人口減少などにより下水道使用料の大幅な増加が望めない中で、老朽化した施設の改築等に多額の費用が必要となることを見込まれることから、厳しさを増していくことが想定される。これらの状況を踏まえ、平成29年度から令和5年度までを計画期間とする「水戸市下水道事業経営戦略」に基づき実施してきたこれまでの取組の検証を行うとともに、企業債未償還残高や一般会計からの基準外繰入金の状況などに留意しながら、中長期的な視点に立った経営の健全化に努められたい。